

自民総裁に岸田氏

決選投票、河野氏破る

自民党は29日、総裁選の投票の結果、岸田文雄前政調会長(64)を第27代総裁に選出した。岸田氏が1回目の投票で1位だったものの、過半数に達せず、2位の河野太郎行政改革担当相(58)との決選投票を実施。岸田氏が勝利した。総裁任期は2024年9月末までの3年間。岸田氏は幹事長など党役員人事に着手し、新執行部を発足させる。間近に迫る衆院選に向け挙党態勢の構築を急ぐ。



自民党の新総裁に選出された岸田前政調会長。29日午後3時4分、東京都内のホテル

岸田 文雄氏(きしだ・ふみお) 早大卒。銀行員、衆院議員秘書を経て93年に衆院初当選。自民党青年局長、沖縄北方担当相、党国対委員長、外相、党政調会長を歴任した。党岸田派(宏池会)会長。64歳。広島1区、衆院当選9回(岸田派)

自民党総裁選 開票結果	氏名(敬称略)	議員票	党員票	1回目合計	決選投票
	岸田 文雄	146	110	計 256	257
	河野 太郎	86	169	計 255	170
	高市 早苗	114	74	計 188	
	野田 聖子	34	29	計 63	

10月4日召集の臨時国会で、退陣表明した菅義偉首相の後継となる第100代首相に指名される。

今回の総裁選は、高市早苗前総務相(60)、野田聖子幹事長代行(61)を含め、4人が立候補した。決選投票になったのは5回目。安倍晋三前首相が勝利した12年の総裁選以来。

新内閣発足後、岸田氏は所信表明演説と各党による代表質問後、衆院解散・総選挙に踏み切るとの見方が党内で強い。衆院選は議員任期満了の10月21日を越え、11月前半実施が有力視される。現行憲法下で任期満了を越える衆院選は初めて。

総裁選で岸田氏は、党改革を最大の課題に掲げ、総裁を除く党役員は1期1年、連続3期までとすること、で権力の集中と惰性を防ぐと強調。経済成長の適切な分配による格差解消を訴えた。